

学校だより 潮鳴り No.10

令和5年1月26日

新年を迎え、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。



1 1月10日(火)第3学期始業式

皆さん、おはようございます。17日間の冬休みはどうだったでしょうか？3年生にとっては、多くの人が高校受験に向けた学習に費やす時間が多かったと思います。学習塾やセミナーに通った人もいたでしょう。さて、1年生、2年生も含めて、充実した冬休みでしたでしょうか？2学期の終業式で話したことを覚えていますか？「人間は一人ではなく、人との関わりの中で生きている。」という話です。特に、年末・年始は、家族や親類と過ごす時間が多かったと思います。話は変わりますが、日本の伝統的な年末・年始の過ごし方として、大掃除、餅つき、しめ飾り、年越しそば、除夜の鐘、初詣、お年玉、等があげられます。どうでしょう皆さん、一つくらいは経験したのではないのでしょうか？特に、お年玉については、ほとんどの人が経験しているでしょう。この「お年玉」というのは、日本独特の風習だそうです。お年玉の由来を調べてみると、もともとは玉ではなく、餅を意味したそうです。皆さんの家には、神棚がある家とない家とあると思いますが、神棚に上げるお供えの餅を意味しているそうです。ですから、「その年の神様が宿った餅をみんなで分けて食べる」という風習から来ているそうです。そうですね、神棚があつて鏡餅をお供えする家とそうでない家といろいろです。なので、餅を分ける代わりに、お金を分け与える風習に変わっていったそうです。面白いですね。ところで皆さん、お年玉は、たくさん貯まりましたか？お金の管理には十分気をつけてください。次に、「新年の抱負」について話したいと思います。1年の始まりに目標を立てて実行する。どうでしょう皆さんも「新年の抱負」として、何か目標を立てたのでしょうか？特に、3年生は、自分自身の進路が関わってきますね。中には、修学旅行の京都班別行動で、「学問の神様」と呼ばれる「菅原道真」が祀られている、北野天満宮へお参りした人もいると思います。さて、1年生、2年生はどうですか？今年1年、何か目標を立てて取り組む気持ちはありますか。「新年の抱負」を立てた人、立ててない人がいると思います。ここで改めて考えてほしいと思います。抱負というのは、目標のことです。ですから、難しくなくて大丈夫です。「テストで満点をとる」「部活で県大会へ行く」「たくさん友達を作る」そういう目標で十分です。その気持ちがあると、実現させるために頑張ることが出来ます。ところで皆さん、抱負という漢字を見たとき、『抱く』『負ける』という組み合わせで「負けるのを抱くのか？」と、一見ネガティブで、違和感を覚える人もいるでしょう。しかし、「負う」は、負けるではなく、『荷物を背負う』『責任を請け負う』などの際に使われる『負う』という意味で、『負ける』という意味ではありません。では皆さん、それぞれの目標をもって、実現させるように、3学期をしっかりと頑張っていきましょう。

2 学校として、目指す理想像について(職員会議)

(1) 安全で安心できる学校

- 安全：事故や事件の未然防止(命を守ることが最優先)
- 安心：心が落ち着いた状態で学習や生活ができる。

(2) 「コミュニケーションができる生徒」

- 世界的な小説家レフ・ニコラエヴィチ・トルストイ氏よれば、「人間は、善良であればあるほど、他人のよさを認める。だが、愚かで意地悪であればあるほど、他人の欠点を探す。」としている。本校の組織目標「一人一人が主体的・対話的に学び、認め合う教育活動の推進」も生徒、保護者、職員がコミュニケーションを取り、「互いのよさを認め合う教育活動」を推進していきましょう。

(3) 「人間性豊かな教師」

- 茨城県の求める教師像の1番目が「教育者として資質能力に優れた、人間性豊かな教師」です。

3 評価について(職員会議)

(1) 相対評価

- 同じ集団内のどの位置にいるかによって、評価を行うこと。

(2) 絶対評価

- 他の人と比べることなく、定められた基準に基づいて評価を行うこと。

(3) 教職員の自己評価(自己申告書)と生徒の評価

- 目標や内容に対しての目標準拠評価(絶対評価)